

# H4東・H4エリア堰内水位低下の原因調査

## ■調査結果

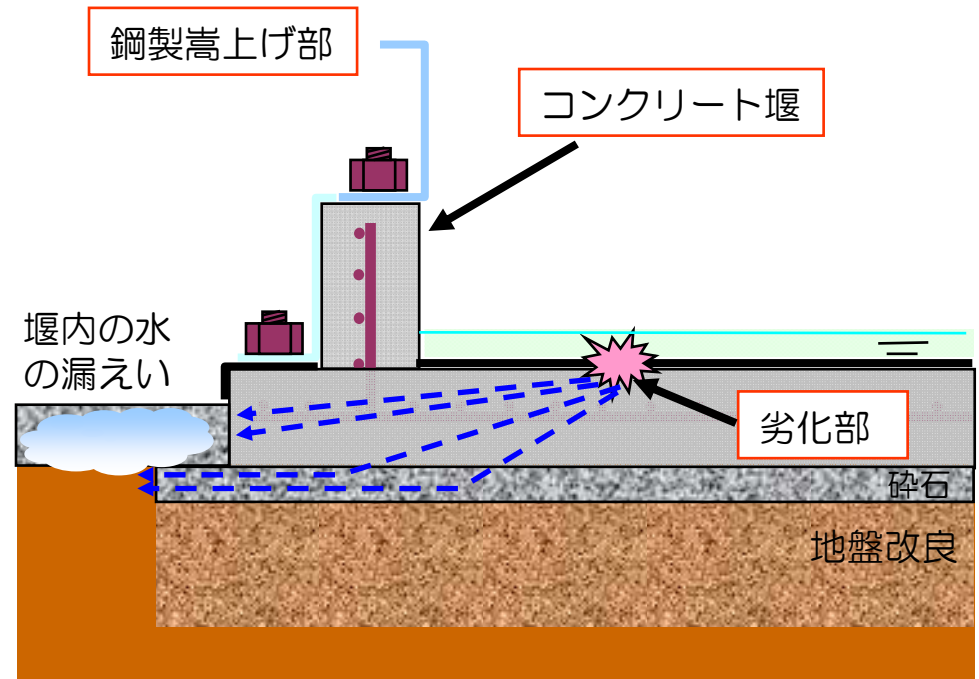
- ・コンクリート堰および基礎に漏洩の原因となるひび割れ等の損傷はみられない。

## ■推定原因

- ・H5エリアの堰からの漏えい（H25年12月21日発生）と同様に、コンクリート打継ぎ部に施している止水シールが劣化。
- ・堰内雨水が劣化部から打継ぎ部に浸透し、打継ぎ部または基礎下の砕石を伝わって基礎堰外に漏えい。



コンクリート打継ぎ部の状況（H4東エリア）



漏えいのイメージ（H5エリア堰内水の漏えい）

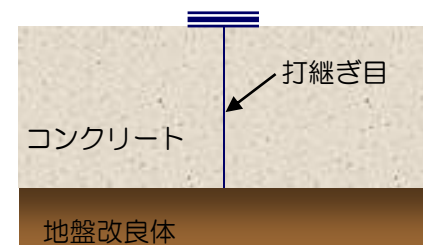
# 堰内水の水位低下への対策（1）

## ■ 堰内の止水対策について

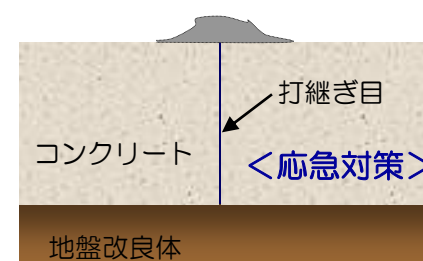
- 応急措置として、劣化している打継ぎ部の止水シートを撤去し、エポキシパテにてコーキングを実施  
 → 応急措置実施後、堰内への水張り試験を実施し、水位低下がないことを確認（12/26～12/27：H4、H4東エリア）
- 中長期的な措置としては、ウレタン系防水塗料にて堰内を被覆し、ひび割れや打継ぎ部等からの漏洩を防止

※H5、H4エリア以外にも、H1東、H2、H6、H9エリアに同様の継ぎ目部の止水シートが施工されているが、これらのエリアはウレタン塗装済み

対策前：アスファルト防水材敷設



対策後：水中エポキシパテ塗布



年月	2013.12									2014.1			2	
	23	24	25	26	27	28	29	30	31	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
H5	■									■		■		
H4東		■			エポキシパテによる応急措置					■	■			ウレタン塗装による 中長期的対策
H4			■							■	■			
H4北				■								■	■	
												■	■	

## 堰内水の水位低下への対策（2）

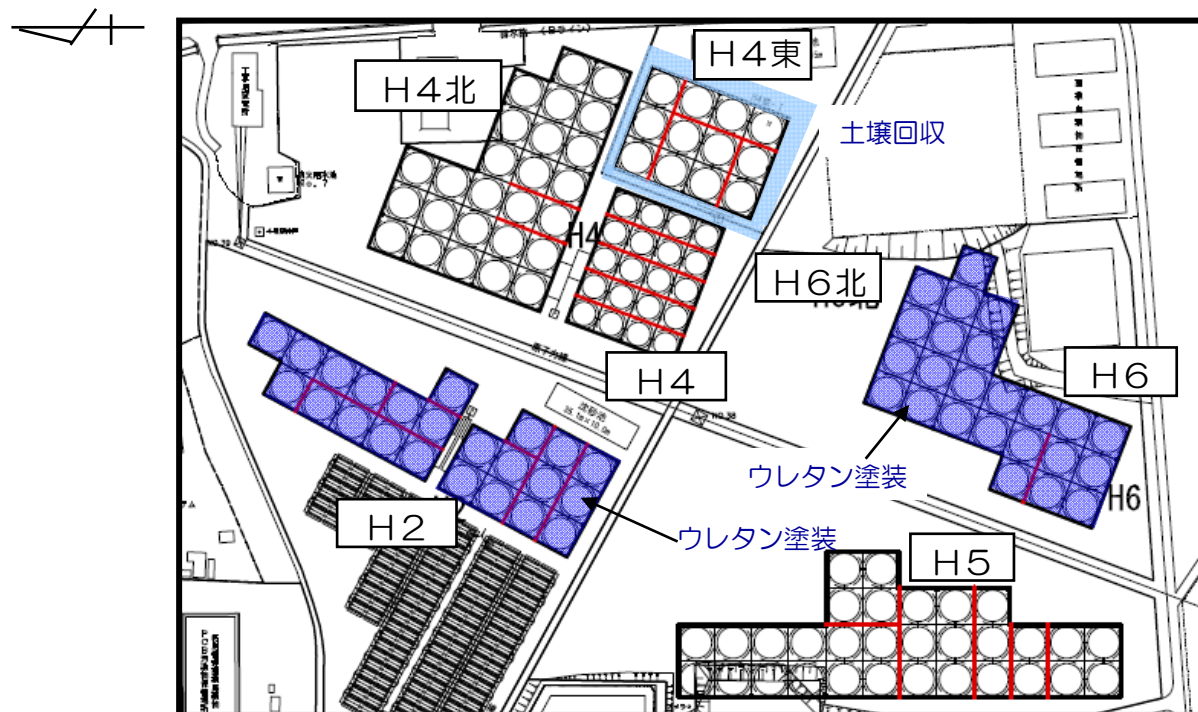
### ■ 汚染拡大防止

- 汚染の可能性のある周辺土壌の回収

(12/26~12/28[予定])

### ■ 監視強化

- 日々パトロールで測定する堰内水位の傾向監視
- 観測孔E-2、E-5、F-1において観測を強化 等



※土壌回収は、既往の実績を踏まえ  
深さ0.5m、幅3m程度を基本とし、  
必要に応じて範囲を拡大

#### [凡例]

- 既設の止水シール（補修範囲）
- ウレタン塗装完了範囲
- 土壌回収範囲

